

公開シンポジウム

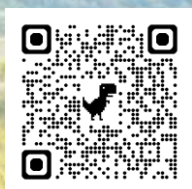
翼がつなぐ世界

—鳥と人の歴史・生態・未来—

2026年 7月12日(日) 13:00 ~ 16:30

参加無料

オンライン開催 申し込みフォームからの参加申し込みが必要です



←申し込みフォームはこちら

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeM9cKuRjz70thMd-5DSE9Oq_WhBFq6NLSozoPGC-kwt_0miQ/viewform?usp=header

お申込み期限:2026年7月5日(日)



主催:日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会
共催:京大生態学研究センター、京大野生動物研究センター

お問い合わせ:実行委員会 wildlife.science.symposium@gmail.com

プログラム

鳥は古くから人間にとって身近な存在でした。その卓越した飛翔能力と高い移動性は、遠く離れた地域の自然環境にも大きな影響を及ぼしてきました。一方で現代社会においては、感染症の拡散、環境変化による個体数の減少など、鳥をめぐるさまざまな課題が顕在化しています。本シンポジウムでは、鳥と人との関係を過去から現在にわたって多角的に見つめ直し、歴史的な事例から最新の研究や保全の取り組みまでを紹介します。

挨拶：村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター 教授）

趣旨説明：池谷 和信（日本学術会議連携会員、国立民族学博物館 名誉教授）

第一部：鳥と人の関わりのこれまで



司会：野林 厚志

（日本学術会議連携会員、国立民族学博物館グローバル現象研究部・研究部長 教授）



世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥

樋口 広芳（東京大学 名誉教授、慶應義塾大学 訪問教授）



野生のウミウに強くこだわる理由

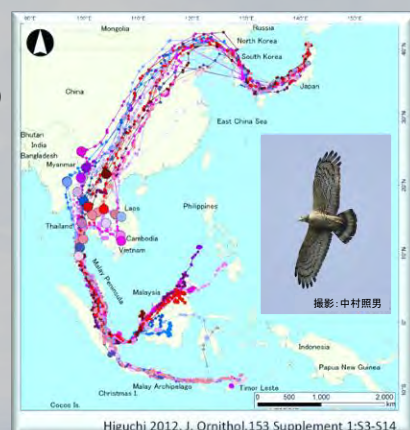
—日本列島における鶺鴒漁の歴史とワイルドライフ

卯田 宗平（国立民族学博物館 教授）



森をめぐるカワウと人との関わり

亀田 佳代子（滋賀県立琵琶湖博物館 館長）



第二部：鳥と人の関わりのこれから



司会：山崎 由美子

（日本学術会議連携会員、新潟医療福祉大学心理・福祉学部心理健康学科 教授）



鳥インフルエンザとワンヘルス：ヒト・動物・環境の視点から

渡辺 登喜子（大阪大学微生物病研究所感染機構研究部門 教授）



野生復帰による人とコウノトリの関係性の再構築

菊地 直樹（金沢大学先端観光科学研究所 教授）



ライチョウの野生復帰と腸内細菌

牛田 一成（中部大学応用生物学部 教授）



生殖細胞の保存と活用による希少鳥類の保全

金子 武人（大阪公立大学大学院獣医学研究科 教授）

総合討論

松本 晶子（日本学術会議連携会員 琉球大学国際地域創造学部 教授）

安田 仁奈（日本学術会議連携会員 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

コメント：環境省野生生物課